

2010一橋大学政策フォーラム 「年金の将来」

— 信頼できる年金制度の構築を目指して —



主催：一橋大学

共催：一橋大学世代間問題研究機構・株式会社日本総合研究所

後援：如水会

日時：2010年9月28日（火）午後2時～5時（午後1時30分受付開始）

会場：如水会館 2F [オリオンルーム]

プログラム

14:00	開会の言葉	山内 進（一橋大学理事・副学長）
14:05	報告	高山 憲之（一橋大学特任教授） 西沢 和彦（株式会社日本総合研究所主任研究員） （一橋大学世代間問題研究機構特任講師） 井堀 利宏（東京大学大学院経済学研究科教授） 稲垣 誠一（一橋大学世代間問題研究機構教授）

15:20-15:30	休憩	

15:30-16:25	報告者全員による討論会	司会 小塩 隆士（一橋大学経済研究所教授）

16:25-16:40	参加者との質疑応答	

16:50-17:00	閉会の言葉	高橋 進（株式会社日本総合研究所副理事長）

お申込み方法：**定員（100名）オーバーとなりましたので、お申込みは締め切りました。**

問合せ：一橋大学世代間問題研究機構

電話：042-580-8312

E-MAIL：nenkin-sympo@ier.hit-u.ac.jp

<http://cis.ier.hit-u.ac.jp/Japanese/society/conference100928.pdf>

2010一橋大学政策フォーラム 「年金の将来」

報告の概要と講師の紹介

■ 高山 憲之 一橋大学経済研究所世代間問題研究機構 特任教授

(1) 報告の概要

タイトル：「世代間問題としての年金」

年金に対する不安と不信はどうしたら取りのぞくことができるのだろうか。人びとの年金制度へのかかわりは通常、60～70年と長い。先がよく見えない将来においても持続し、安心して信頼することのできる年金制度—そのような年金制度をどう構築したらよいのかについて、この間、内外で精力的に進められてきた研究の主要な成果を紹介しながら、お話しする予定である。

(2) 講師の紹介

高山 憲之（たかやま のりゆき）：1946年生まれ。東大大学院修了。経済学博士。現在、一橋大学経済研究所世代間問題研究機構 特任教授。「年金の鉄人」としてテレビ朝日・報道ステーション等に出演。「世代間問題」研究プロジェクトの代表を務める。日経・経済図書文化賞受賞（『貯蓄と資産形成』1996年）。著書：『信頼と安心の年金改革』（東洋経済新報社、2004年）、『年金と子ども手当』（岩波書店、2010年）等。URL：<http://www.ier.hit-u.ac.jp/~takayama/>

■ 西沢 和彦 日本総合研究所調査部 主任研究員 (一橋大学経済研究所世代間問題研究機構 特任講師)

(1) 報告の概要

タイトル：「所得を課税ベースとする年金一元化の課題」

「所得」を課税ベースとする年金一元化には、クロヨン問題克服や無業の妻の取扱いなど制度設計上の課題が多い。加えて、そもそも、著しい少子高齢化が進むわが国で、賦課方式のもとの所得比例年金を主とする制度体系はなお議論の余地がある。こうした課題と方向性を示す。

(2) 講師の紹介

西沢 和彦（にしざわ かずひこ）：1965年生まれ。一橋大学社会学部卒。法政大学経済学修士。現在、日本総合研究所調査部主任研究員。2010年8月より一橋大学経済研究所世代間問題研究機構特任講師を兼任。2006年12月より社会保障審議会年金部会委員。著書は、『年金制度は誰のものか』（日本経済新聞出版社、2008年）等。

■ 井堀 利宏 東京大学大学院経済学研究科 教授

(1) 報告の概要

タイトル：「年金方式の役割分担」

少子高齢化社会が急速に進行しているわが国では、賦課方式の公的年金に依存するには限界がある。賦課方式年金のメリットとデメリットを再検討して、若い世代、将来世代にとってもメリットのある年金方式という視点で、個人勘定あるいは積立方式との望ましい役割分担を考える。

(2) 講師の紹介

井堀 利宏 (いほりとしひろ)：1952年生まれ。東京大学経済学部卒、ジョンズホプキンス大学大学院 Ph.D、現在東京大学大学院経済学研究科教授。専門は財政学、公共経済学、財政制度審議会委員などを務める。2010年4月より日本経済学会会長 著書に『日本の財政赤字』『小さな政府の落とし穴』『誰から取り誰に与えるか—格差と再分配の政治経済学』等。

■ 稲垣 誠一 一橋大学経済研究所世代間問題研究機構 教授

(1) 報告の概要

タイトル：「年金制度改革の移行措置」

低年金・低所得の高齢者は、今後、どのように増加していくのだろうか。日本社会のダイナミック・シミュレーションモデルを用いて、同居家族の所得を考慮した高齢者の所得分布の将来見通しを示し、貧困層増加の原因・問題点を明らかにする。どのような年金制度改革が有効な対応策となりうるだろうか、移行措置に重点を置いて考える。

(2) 講師の紹介

稲垣 誠一 (いながき せいいち)：1956年生まれ。名古屋大学大学院修了。博士(経済学)、年金数理人。厚生省年金局、ILO 勤務等を経て、現在、一橋大学経済研究所世代間問題研究機構教授。ダイナミック・マイクロシミュレーションモデルの第一人者。著書：『日本の将来社会・人口構造分析』(日本統計協会、2007年)。

(司会) 小塩 隆士 一橋大学経済研究所 教授

1960年生まれ。東京大学教養学部卒。大阪大学博士(国際公共政策)、経済企画庁(現内閣府)等を経て、現在、一橋大学経済研究所教授。専門は公共経済学。『再分配の厚生分析』(日本評論社、2010年)等。